

〈巻頭言〉

「地域と教育」研究会報 創刊号刊行にあたって

筑波大学大学院 人間総合科学研究科

教授 手打明敏

「地域と教育」研究会は、平成13年に、教育学系生涯学習・社会教育学研究室の教員であった手打（当時 助教授）と安藤耕己氏（当時 教育学研究科大学院生、現吉備国際大学准教授）が中心となって、学群・学類（学部・学科に相当）の学生にも呼びかけて、社会教育実践の「現場」である地域社会のなかで社会教育にかかわる問題を考えようという趣旨で設立されました。

発足当初、研究会は学内での個人研究発表と年に1回ほどテーマを決めて巡検をおこなってきました。巡検を振り返ってみますと、平成14年度、長野県茅野市（子育て支援）、平成15年度、埼玉県川越市（蔵のあるまちづくり）、平成16年度、茨城県玉里村（総合文化センター）と各地に巡検をおこなってきました。このように学内外で研究会活動をおこなってきましたが、巡検は単発的なテーマにもとづく年1回の行事として実施され、学内でおこなわれる研究会活動とは切り離されていました。

平成17年度の研究会をスタートするにあたり、私は、「地域と教育」研究会として一つの地域を選び、研究会メンバーがそれぞれの関心からテーマを設定し、継続的な共同研究をおこないたいという提案をおこないました。幸い研究室の院生諸氏からも賛同を得ることができました。平成17年度は研究会として、どのような地域を研究のフィールドに設定するかという検討に大半の時間を費やしてきました。そして平成18年3月から2年間、千葉県君津市をフィールドとして君津市の社会教育関連施設、団体等を対象として調査を実施しました。その成果は、『君津調査 中間報告書』（平成20年7月）としてまとめられました。その後も君津調査は継続していますが、君津市の社会教育を相対化する必要があるということから、平成21年度は茨城県と隣接している福島県矢祭町をフィールドとして研究作業を開始しましたが、アクシデントにみまわれ夏の調査合宿は中止するにいたりました。ようやく、本年2月に矢祭町巡検を実施することが出来ました。

以上、これまでの研究会活動の足跡を記しましたのは、「会報」創刊号の発行にあたり、研究会発足期の活動を記録に留めておくことは後世の会員にとって意味あることと思ったからです。今後、本会報が研究会の活動の報告、記録のみならず、研究会にかかわったメンバーと現役の院生・学生との交流の「場」となるよう継続していくことを期待します。

なお、本号は矢祭町巡検特集として刊行されます。大学院生、学類学生が短時間の矢祭巡検で見聞したことの報告です。十分な準備作業が出来ないままでの巡検でしたので、考察、分析が必ずしも十分なものとはなっていませんが、学生達の率直な感想として受け止めていただきたいと思います。

最後になりましたが、私達の巡検を快く受け入れていただき、矢祭町の現状、生涯学習・社会教育事業、「もったいない図書館」等について丁寧なご説明をしていただきました、教育委員会の角田孝雄教育課長、片野一也主幹、矢祭もったいない図書館の金澤昭館長に御礼申し上げます。